

1 初期ギリシア哲学 —ミュトスからロゴスへ (西洋古代哲学)

BC 6 C頃、ギリシアの自然哲学者と呼ばれる人々が出現し、万物の根源（アルケー）を論じた。

[024]ギリシア哲学の見取り図

自然哲学（タレス等）	アルケー
ソフィスト→ソクラテス	アレテーと無知の知
プラトン	イデアとエロス
アリストテレス	質料・形相
ヘレニズム思想（ストア派とエピキュロス）	禁欲主義と快楽主義 / <i>アτακαア</i> と <i>アパテイア</i>

ギリシア哲学は theory と logic の源流

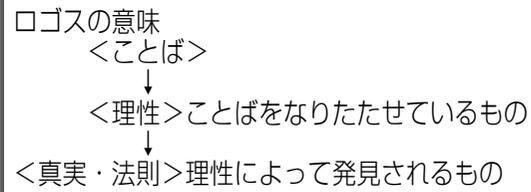
1) theory : テオリア → 近代では <理論> だが、ギリシアでは「観想（見ること）」*τηορια* を意味した。

テオリア : 見る → 理論 : theory
 プラクシス *πραξις* : 作る → 実践 : practice

cf ギリシアは奴隷制 → 労働軽視 → スコーレー（ひま）のある市民はテオリアを重視

2) logic : ロゴス → 近代では主として <論理> の意味に用いられる

λόγος



[025] 自然哲学

◆ 主な自然哲学者 アルケー（*αρχη*）を追求した

人物	アルケー	ことばと注釈
タレス	水	日食を予言。イオニア（小アジア）の人。次の二人も。
アナクシマン드로ス	ト・アペイロン	<i>τὸ ἄπειρον</i> （無限なるもの）→ 規定不能
アナクシメネス	空気	空気は無限で無規定だから。
ヘラクレイトス	火	<i>τὰ πάντα ῥεῖ</i> （万物は流転する） 同じ川に再び戻ることはできぬ。 変化の法則 = ロゴス
ピタゴラス	数	魂の浄化をめざし、数と比例を崇拜
パルメニデス	有 (変化しない何か)	「有るものは有り、有らぬものは有らぬ」 → ヘラクレイトス的变化の否定
エンペドクレス	火・水・土・空気	多元論。4元素は愛・憎で離合集散。
デモクリトス	アトム (分割不可能なもの)	原子論。 「人の習わしでは、色・甘さ・苦さ。 しかし、真実には原子と空虚」

[026] ミュトスからロゴスへ——自然哲学の意義

ミュトスからロゴスへ（神話から理性へ）：ロゴスによって万物の根源を説明する

1) ミュトス：神話。myth ← *μύθος* わからないことは「神様」で説明した。
 ex ヘシオドス『神統記』

↓ ポリスの交流で「神話」の食い違いを知る

2) 自然哲学者：万物の根源（= わからないこと）をロゴスで考え合理的に説明した。
ロゴスを使ったテオリアによって「なぜ」を自分で考え、他人と共有できる。

→ 自然哲学は合理主義（ことばを使った理性に従って思索する）の源流になった
 ex 科学（哲学）の父 = タレス

2 ソフィストからソクラテスへ

BC 5 C頃、ギリシアのアテネにソフィストと呼ばれる人々が出現した後、ソクラテスが現れ、魂への配慮を説いた。

[027] ソフィスト

ソフィスト：「σοφία（知恵）のある人」。職業教師。
 青年達に弁論術を教えた。
 →絶対的な真理はないという相対主義から、「詭弁家」と評価される。

プロタゴラス	人間は万物の尺度である。〈ある〉ということについては〈ある〉ことの。〈ない〉ということについては〈ない〉ということの。
--------	---

[028] ソクラテス

ソクラテス (BC470 ? ～ BC399)	デルフォイのアポロン神の神託(「ソクラテス以上の知者はいない」)によって、フィロソフィア(知を愛する。Philosophy: 哲学)の生活に入る。青年を腐敗させる罪で死刑。「悪法もまた法なり」。
-------------------------------	---

[029] 問答法と無知の知

問答法(助産術)	ソクラテスの哲学探求方法。相手(知者?)と議論しその矛盾を指摘することで相手の無知を自覚させ、真理を生み出すことを助ける(だから助産術)。
無知の知 (汝自身を知れ)	問答の結論: 他の人間は〈真に大切なもの〉を知らない →ならば、自分を無知と思う私(ソクラテス)の方が知を愛している。 ~自分の無知について自覚していること→哲学の立脚点。

[030] 魂と徳

魂への配慮 επιμέλεια της ψυχής	徳(アレテー ἀρετή) = よさ・卓越性。ex 馬のアレテー = 速い →人のよさ = 魂(プシュケー ψυχή)のよさ ~真に大切なのは「魂をよくすること」
知徳合一	魂のよさ(徳)はロゴスによって知ることができる(徳は知なり) →本当に知っていれば善い行動をする(知行合一) →魂がよくなり「よく生きる」ことが幸福だ(福德一致)

[031] ソフィストとソクラテスの意義

ソフィストのどこが〈売り〉か? : ログスの対象をフュシスからノモスへ向けた。

自然(φύσις フュシス)はの秩序(ロゴス)は、人間のことば(ロゴス)で解釈される。
 ならば、人間世界の秩序(νόμος ノモス)が探求の対象でなくてはならない。

↓

ソフィストのどこが〈アラ〉か? : 相対主義に陥った。

人間は複数いる。→複数の人に複数の秩序。→秩序は人それぞれ。(相対主義)

↓

ソクラテスのどこが〈売り〉か? :
 人間共通の「よい生き方」(=倫理・moral)の概念を提出した。

相対的な秩序(ソフィストの知)を超えた、人間に共通の秩序(=徳。真に知るべき事)の存在を考えた。 cf アレテーの中身を整理したのはプラトン
 ~「ただ生きることではなく、よく生きることが大切なのだ」

οὐ τὸ ζῆν περὶ πλείστον ποιητέον ἀλλὰ τὸ εὖ ζῆν

3 プラトンとイデア

プラトンはイデアの概念と、それへの愛（エロス）を唱える理想主義者だった。

[032] プラトン

プラトン (BC427 ～ 347)	ソクラテスの弟子。師の死後、アカデメイアという学園を開いた。 ・前期：ソクラテス思想の紹介。『ソクラテスの弁明』『クリトン』 ・中後期：イデア論等の展開。『パイドン』『饗宴』『国家』。
--------------------------	--

[033] イデア論

イデア ιδέα	モノの究極の姿（完全な「ものそのもの」）。 例 花が花とわかるのは、花のイデアに似ているから。 (1)イデアはどこにあるか？：イデア界に実在する。 →経験・感覚では見えない（洞窟の比喩）。 (2)現実世界(現象界)にあるものは？：不完全で変化するイデアの似姿。 (3)魂はもともとイデア界にあったので、 イデアを想起する(アナムネーシス)することができる。 (4)イデアがイデアである根拠は？： イデアのイデア（究極のイデア＝善のイデア）
エロス ἔρως	魂がかつての故郷イデア界を恋いしたう（＝想起する）こと。 →これによって「善のイデア」＝「本当に知るべき事」を求める

[034] 「愛」の概念の違い

エロス	：あこがれ（恋）	：不完全な者が完璧なものを恋い慕う。
アガペー	：ゆるし	：完全な神が不完全な人間を許し救う。
フィリア	：友愛(友情)	：人間同士の相互信頼とおもいやり。
慈悲	：いつくしみ	：完全を求める者が一切をすくい上げる。

[035] 魂の三分説と四元徳

魂の三分説	部位	その働き	よく機能した状態 ＝四元徳
	頭	理性＝イデアの知を求める	知恵
	胸	気概（意志）＝勝利・名誉を求める	勇気 → 正義
	腹	欲望＝金銭・利益を求める	節制

↑
知
御
↓
制
御

[036] 哲人国家

哲人政治	哲学者が政治をおこなうべきだとする説。								
	<table border="1"> <tr> <td>人</td> <td>頭</td> <td>胸</td> <td>腹</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>統治者</td> <td>防衛者</td> <td>生産者</td> </tr> </table> →知恵の徳をもつ統治者 ＝哲人王	人	頭	胸	腹	社会	統治者	防衛者	生産者
人	頭	胸	腹						
社会	統治者	防衛者	生産者						

[037] プラトンの意義

プラトンのどこが<売り>か？：ソクラテスの「真の知」の内容を明らかにした。

「真の知」＝「善のイデア」についての知



イデア論のどこが<売り>か？：現実を超えた理想（イデア。idea）の世界を想定して、人間の魂の働き（＝エロス）を中心に世界を秩序だてた。 →思想主義(idealism)

4 アリストテレスとヘレニズム思想

アリストテレスは、現実主義の哲学を主張して中庸の徳を主張した。彼の後のギリシア思想は、禁欲主義と快楽主義とに分かれた。

[038] アリストテレス

アリストテレス (BC384 ～ 322)	マケドニアの人。プラトンの弟子。アレクサンドロス大王の家庭教師。学園リュケイオンを開き、学問を集大成。 『形而上学』『詩学』『ニコマコス倫理学』
-----------------------------	---

[039] 形相と質料

形相と質料	形相：エイドス（アイデアと同義）。「もの」の本当の姿。 ～ただし、アイデア界にはなく、「もの」の中に存在する。 質料：ヒューレー。「もの」の材料
-------	--

[040] 徳と中庸

徳	知性的徳 頭（理性）のよさ ex 知識・技術 →教育や学習で得る 倫理的（習性的）徳 人柄のよさ ex 節制……友愛、正義 →よい行為の繰り返し（習性）で得る
中庸	倫理的徳とは中庸（過不足なく偏らない）である ex 無謀← 勇気 →臆病
友愛と正義	互いが相手の善を願う相互的愛情＝友愛（フィリア） 社会でのバランスのとれた正義

[041] 正義と政治

正義の二段階	全体的正義：ポリスの法を守る 部分的正義：個人をフェアに評価する 配分的正義：能力・実績に応じて評価 調整的正義：各人の利害を均等にする
--------	---

幸福主義	善は幸福（何かを得られて心が満足した状態） ◆幸福の段階 幸福（快楽）：享樂的生活→幸福（富）：蓄財的生活→幸福（名誉）：政治的生活→ 幸福（真理）：観想的生活＝真理を直観＝最高善
------	--

[042] ヘレニズム思想

エピクロス派 (エピクロス)	快楽主義 隠れて生きよ	幸福＝精神的快楽（魂の平静さ＝アタラクシア） 魂が平静であるためには政治から離れる。
ストア派 (ゼノン)	禁欲主義 コスモポリタニズム	幸福＝魂の平静さ ＝情念からはなれ理性に従う（アパテイア） 世界市民主義。理性をもつ人類は国家を超え平等

[043] アリストテレスとヘレニズム思想の意義

アリストテレスのどこが＜売り＞か？：事物の本質をアイデア界から現実世界に求めた

プラトンのアイデア界は現実によって変えられない
→アイデアが現実世界にあるなら、世界の探求（自然哲学の目標）はナンセンスではない。～自然哲学と人間学（ソクラテス・プラトン）を統合した。
→学問の体系化 cf アリストテレス＝万学の祖



なぜヘレニズム思想が生まれたか？：アレクサンドロス大王によってポリスが崩壊しポリス的市民生活像が崩壊したから。

エピクロス派 →社会（ポリス）から離れる
ストア派 →ポリスの枠を超える（コスモポリス＝全世界が一つのポリス）

ソクラテス思想の根幹

εἰ οὖν με, ὅπερ εἶπον, ἐπὶ τούτοις ἀφίοιτε, εἶποιμ' ἂν ὑμῖν ὅτι 'ἐγὼ ὑμᾶς,
(私が知の探求をやめれば罪に問わないと提案されたと仮定して) アテネの諸君, 私は諸君を本当に敬愛している。

ὁ ἄνδρες Ἀθηναῖοι, ἀσπάζομαι μὲν καὶ φιλῶ, πείσομαι δὲ μᾶλλον τῷ θεῷ ἢ ὑμῖν,
が, 私は諸君に従わない。(ソクラテス以上の知者はいないと言った) 神に従うのだ。
καὶ ἔωσπερ ἂν ἐμπνέω καὶ οἴος τε ὦ, οὐ μὴ παύσωμαι φιλοσοφῶν
私は命の続く限り, 可能な限り, 知恵を愛することをやめない。

λέγων οἴαπερ εἶωθα, ὅτι 'ὦ ἄριστε ἀνδρῶν, Ἀθηναῖος ὢν,
だから, 諸君に指摘する。……優秀な諸君よ, 諸君はアテネ市民である,

πόλεως τῆς μεγίστης καὶ εὐδοκιμοτάτης εἰς σοφίαν καὶ ἰσχύν,
最高の都市, 知恵と力で最も名高いアテネの市民である。

χρημάτων μὲν οὐκ αἰσχύνῃ ἐπιμελούμενος ὅπως σοὶ ἔσται ὡς πλεῖστα,
でありながら, 恥ずかしくないのか, 金をほしがるとは。

καὶ δόξης καὶ τιμῆς, φρονήσεως δὲ καὶ ἀληθείας καὶ τῆς ψυχῆς ὅπως ὡς βελτίστη ἔσται οὐκ ἐπιμελῆ οὐδὲ φροντίζεις;' καὶ ἐάν τις ὑμῶν ἀμφισβητήσῃ καὶ φῆ ἐπιμελεῖσθαι, οὐκ εὐθὺς ἀφῆσω αὐτὸν οὐδ' ἄπειμι, ἀλλ' ἀξιολογῶν
評判, 名声の獲得に汲々として, 知恵, 真実, 魂の鍛錬を気につけないとは。

οὐδὲν γὰρ ἄλλο πρᾶττων ἐγὼ περιέρχομαι ἢ πείθων ὑμῶν καὶ νεωτέρους καὶ πρεσβυτέρους μῆτε σωμάτων
私のしていることはただ一つ, 老若を問わず, 諸君との議論だ。「a) 諸君の肉体や富には構うな、

ἐπιμελεῖσθαι μῆτε χρημάτων πρότερον μηδὲ οὕτω σφόδρα ὡς τῆς ψυχῆς ὅπως ὡς ἀρίστη ἔσται, λέγων ὅτι
魂の鍛錬にこそ配慮せよ」と。私は説く, 「金銭から徳は生まれない, b) 金銭などの諸々は、徳によって、個人にとっても国家にとっても、良きものとなるのだ」。

(プラトン『ソクラテスの弁明』 29C-30B)

- a) 魂への配慮
- b) 福德一致

プラトンのイデア論

ἀλλ' ἐάν τις μοι λέγῃ δι' ὅτι καλὸν ἐστὶν ὅτιοῦν, ἢ χρῶμα εὐανθές ἔχον ἢ σχῆμα ἢ ἄλλο ὅτιοῦν τῶν τοιούτων, τὰ μὲν ἄλλα χαίρειν ἐῶ,—ταράττομαι γὰρ ἐν τοῖς ἄλλοις πᾶσι—τοῦτο δὲ ἀπλῶς καὶ ἀτέχνως καὶ ἴσως εὐήθως ἔχω παρ' ἐμαυτῷ, ὅτι οὐκ ἄλλο τι ποιεῖ αὐτὸ καλὸν ἢ ἡ ἐκείνου τοῦ καλοῦ εἴτε παρουσία εἴτε κοινωνία εἴτε ὅπῃ δὴ καὶ ὅπως ἤ προσγενομένη:

誰かが言ったとしよう, 「あるものが美しいのは, 色が輝いているからだ」「形やその類いの性質があるから (美しいの) だ」。私はその手の一切の説と訣別する。その手の説は私を混乱させるだけだ。私はシンプルに, 無造作に, 愚直に, 次のことにこだわりたい。ものを美しくしているのは, 美が顕わになるというか, 美を分かち合うというか, ……美そのものが現れ出ることについて, 積極的ないいことばが浮かばないが,

οὐ γὰρ ἔτι τοῦτο δυσχυρίζομαι, ἀλλ' ὅτι τῷ καλῷ πάντα τὰ καλὰ γίγνεται καλά.

とにかく, 断じて言う, 「すべての美しいものが美しいのは, 美 (のイデア) によってだ」。

(プラトン『パイドン』 100c-d)

プラトニック・ラブ——魂と恋 (ちょっと大人向き)

Σωκράτης οὐκοῦν ὁ μὲν τοῦ σώματός σου ἐρῶν, ἐπειδὴ λήγει ἀνθοῦν, ἀπιὼν οἴχεται;
ソクラテス 君の身体に恋してる者は, 身体の盛りが過ぎれば, さっと逃げる
Ἀλκιβιάδης φαίνεται.

アルキビアデス うん

Σωκράτης ὁ δὲ γε τῆς ψυχῆς ἐρῶν οὐκ ἄπεισιν, ἕως ἂν ἐπὶ τὸ βέλτιον ἴῃ;
ソクラテス でも君の魂に恋する者は, 君が魂を鍛錬している限り, 逃げない。

Ἀλκιβιάδης εἰκός γε.

アルキビアデス たぶん

Σωκράτης οὐκοῦν ἐγὼ εἰμι ὁ οὐκ ἀπιὼν ἀλλὰ παραμένων λήγοντος τοῦ σώματος, τῶν ἄλλων ἀπεληλυθότων. アルキビアデス君

ソクラテス 僕は逃げないよ, 君と変わることなく付きあうよ。君の身体が盛りを過ぎ, 他人が逃げ去っても。

Ἀλκιβιάδης εὖ γε ποιῶν, ὦ Σώκρατες; καὶ μηδὲ ἀπέλθοις.

アルキビアデス ソクラテス, 嬉しいよ, ずっと一緒だよ。

(プラトン『アルキビアデス』 131c-d)



5 一神教とユダヤ教

パレスチナで生まれたユダヤ教は、ヤーヴェを信じる律法思想だった。

[044] キリスト教思想の見取り図

ユダヤ教	ヤーヴェ・律法・選民思想
イエス	アガペー
原始キリスト教団	三元徳・教父哲学・スコラ哲学
イスラム教	アッラー・六信五行

キリスト教は、理性主義の限界を克服する「信仰による救済思想」の源流

1) 「知」のもつ二つの問題点……「知」と「徳（よいこと）」との関係

a) 知徳合一（よいことをしていればよくなる）の限界

→ 「善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまとっているという法則に気づきます。「内なる人」としては神の律法を喜んでいますが、わたしの五体にはもう一つの法則があって心の法則と戦い、わたしを、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。」（パウロ・『新約聖書』ローマの信徒への手紙 7-21 ~ 24）

～なにがよいか知っていても（説明できても）、よいことができないという人間の現実をどう解決するか？

b) 「知」が<悪（罪）>をもたらすという矛盾

→ 「『律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったでしょう。たとえば、律法が『むさぼるな』と言わなかったら、わたしはむさぼりを知らなかったでしょう。」（パウロ・『新約聖書』ローマ人への手紙 7-7）

2) 脱神話の二つの型

- ◆ 神に代わって人間理性を信頼する → ロゴス（ギリシア思想）
- ◆ 神の働きを言語化して信仰する → アガペー（キリスト教）

[045] ユダヤ教

ユダヤ教：パレスチナ地方にすむユダヤ人（イスラエル人）の宗教。

ヤーヴェ	ユダヤ教の唯一神。									
モーセ	1) BC13 C頃のユダヤ人の指導者。それまでエジプト人の奴隷だったユダヤ人を連れて、エジプトを脱出。 (～「出エジプト記」『旧約聖書』)。 2) <u>十戒</u> ：モーセがヤーヴェから授かった律法。 ex 安息日を守れ・姦淫するな・ものを盗むな									
旧約聖書	ユダヤ教の聖典。「旧約」＝ヤーヴェとユダヤ人との「契約」 <div style="text-align: center;"> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>ヤーヴェ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>律法を守る</td> <td>↑ ↓</td> <td>恩寵</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ユダヤ人</td> <td></td> </tr> </table> </div>		ヤーヴェ		律法を守る	↑ ↓	恩寵		ユダヤ人	
	ヤーヴェ									
律法を守る	↑ ↓	恩寵								
	ユダヤ人									
原罪	神の作った人間（アダムとイブ）の犯した罪。									
選民思想	契約を交わしたユダヤ人のみが救われる。～ノアの方舟									

[046] ユダヤ教の意義

ユダヤ教のどこが<売り>か？：一神教の原型となった。

↓

ユダヤ教のどこがイエスによって否定されたか？：選民思想と形式化した律法主義

律法を守ることのみが、信仰→信仰の本質をイエスは問いなおした。

6 イエスとキリスト教

紀元前後に出現したイエスは、神の本質をアガペーと考え、無償の愛を説いた。イエスの死後、パウロはキリスト教を地中海に広め、中世ヨーロッパのキリスト教世界の基礎を作った。

[047] イエス

イエス(Jesus) BC4?~ AD30?	ユダヤのナザレに生まれ(処女懐胎)、バプテスマのヨハネの洗礼を受けて30歳頃から主にしいたげられた人たちに宣教を開始、サドカイ派・パリサイ派(ユダヤ教)を批判、3年後に死刑。
---------------------------	---

[048] イエスの教え

福音	喜ばしい知らせ(音信)。→神の国の実現や救いについての教え			
アガペー	<p>イエスの説いた愛。 1)無償の愛 2)創造的愛 3)犠牲の愛</p> <p>A: 神の人への愛(平等愛) 罪人にも等しく注がれる愛 (~神がイエスを送り、人類の罪を贖うため十字架にかけた愛)</p> <p>↓</p> <p>B: 人の神への愛(信仰・心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。[マタイによる福音書] 22-37)</p> <p>C: 人と人との愛(隣人愛・隣人を自分のように愛しなさい。同 22-39) ~「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」 ([マタイによる福音書] 5-44・いわゆる「山上の垂訓」)</p>			
新約聖書	<p>キリスト教の聖典。イエスのもたらした神と人との新しい契約。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>神</td> </tr> <tr> <td>信仰 ↑ ↓ 恩寵(神の愛)</td> </tr> <tr> <td>全人類</td> </tr> </table>	神	信仰 ↑ ↓ 恩寵(神の愛)	全人類
神				
信仰 ↑ ↓ 恩寵(神の愛)				
全人類				

[049] イエスの意義

イエスの思想のどこが<売り>か? : 1)律法の内面化
2)ユダヤ人の為の教えから人類のための教えへ

- 1)ユダヤ教の律法: 外面的規定→イエス: 心の中身(=信仰・隣人愛)を問題にした。
- 2)隣人愛の拡大: ユダヤ人にための教え→全人類のための教え

[050] 原始キリスト教団

(1) ペテロ

ペテロ(?~ AD67頃): イエスの最初の弟子。「ペテロの否認」→イエスの復活の証人。
ローマ・カトリック教会の創始者。ネロの迫害によって殉死?

(2) パウロ

パウロ(?~ AD46頃): パリサイ派からキリスト教に回心。イエスの死後、キリスト教を伝道、原始キリスト教団を形成。ネロの迫害によって殉死?

贖罪と復活	イエスの死=人の原罪をつぐなったもの、イエスの死後の復活信仰 →イエスは神の子であり救世主(キリスト)~キリスト信仰の発生
三元徳	1)信仰 2)希望 3)愛 「信仰と希望と愛と、この三つはいつまでも残る」

[051] ローマカトリック—教父哲学とスコラ哲学

アウグスティヌス 4~5C	『神の国』 『告白』	カトリック教義の確立 カトリック=普遍的 1)人は原罪を負う→神の恩寵で救われる 2)世界の歴史は神の国と地の国との闘争 3)三位一体: 神=神の子(イエス)=聖霊
トマス=アクィナス 13C	『神学大全』	スコラ哲学を体系化(アリストテレス哲学で信仰と理性を統合する。)信仰>理性
ウィリアム・オッカム		信仰を哲学から切り離す(オッカムの剃刀)。